

# 学院時報

No.92

平成31年3月1日発行

## 聖ドミニコ学院

幼稚園・小学校  
中学校・高等学校

〒980-0874  
仙台市青葉区角五郎2-2-14  
URL: <http://www.dominic.ac.jp>  
TEL 022(222)6337  
FAX 022(221)6203

北仙台幼稚園  
〒981-0914  
青葉区堤通雨宮町11-11  
TEL・FAX 022(234)3615

### 「教育は仁術なり」

理事長兼中学校校長

小笠原朋之



私は、四十歳代半ばに生徒のほとんどが進学希望である高校から

生徒指導に力を入れ、学校の立て直しに取り組んでいた高校に転勤しました。四月の新任式で体育館に案内された時、思わず息を呑みました。生徒たちはうなだれ、表情から生気が感じられません。授業は、三年生の国語表現と一年生の現代文・古典を担当しました。三年生ともなると教科書・ノートを持ってきています。教員に対して敵対意識むき出しの生徒もいます。毎時間あの手の手で授業に何とか集中して取り組ませ、うまくいった手法で次の時間も臨みますが、天気と同じで晴れた日ばかりではありません。それまでのわたしは、教員とは授業を組織的に構築していく演出家であり、オーケストラにたとえれば指揮者であり、時には役者であるところとらえていました。これまでの考え方では光が

見えない。どうしたらいいのか。自分の無力さを痛感しました。しかし、逃げ出すわけにはいかない。

ある日の一年生の授業で、図書館に備えられている辞書を使って調べ学習を行いました。一人の生徒がなかなか先に進みません。五十音図が頭に入っていないのでは？その生徒を職員室に呼び、五十音図を書かせてみました。やはりそうでした。この生徒は五十音図そのものが身につけていないまま、言葉を学んできたのです。いままで放っておかれてきたことに唖然としました。

江戸時代の儒学者貝原益軒は、その著書『養生訓』の中で「医は仁術なり。」と記し、医師は思いやりのある愛の心で、患者を救うことを本分とし、自己利益に専念してはならない。と説いています。教育にもこのことは当てはまります。生徒個々に応じた「処方箋」を授けられるようになることも教員の資質なのだということ学びました。生徒をありのままに受け止め、認めてあげることの大切さをあらためて学びました。

「初心」（子どもたちは親や教員の粘土細工ではない）を忘れず、いつも感謝の念を持って！

### 小学校合唱団

史上最響の夏

合唱顧問 齋藤 朋枝

今年度は六年生が掲げた「史上最響」を目標に、これまでで一番輝きのあるハーモニーを目指してきました。各々の声の個性を生かしながら、とけあうハーモニーをつくりだすことが合唱の醍醐味であり、難しさです。コンクールに向けて、夏休み中にも練習を重ねましたが、思うようにいかず、子ども達は沢山の壁にぶつかるとも。それを忍耐強く乗り越えた時、歌声とともに心の成長が四十五名の団員一人ひとりに見られ、これこそが合唱活動を通して得られる最高の宝物であると、今改めて実感しています。

「歌が大好き！」という思いで私達は一つになれる。何より大切な合唱団の軸は、いつも前進する勇気を与え続けてくれました。また、学院の先生方や保護者の皆様、多くの方々に励ましを頂いたお陰で、全てのステージで悔いなく力を出し切り、以下の成績を収めました。「感謝は歌声で」私達はこれからも、沢山の方々に喜びと幸せを届けられる合唱を目指し歌い続けます。今後と

も応援を宜しくお願い致します。

### ★今年度の受賞歴

NHK全国学校音楽コンクール

東北大会【銀賞】

全日本合唱コンクール宮城県大会

【第一位・金賞】

宮城県合唱連盟理事長賞

TBC子ども音楽コンクール

東北大会【優秀賞】

宮城県アンサンブルコンテスト

出場三チーム【金賞】特別賞として

【河北新報社賞・カワイ賞】

声楽アンサンブルコンテスト

【全国大会 出場決定】

★第五回卒業演奏会のご案内

平成三十一年三月二十一日(木)

十四時開演 学院聖堂にて

沢山の方のご来場、心よりお待ちしております。



### 聖書のいっば

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」  
(マタイによる福音書4章4節)

二十数年前、修道会の養成の実習として三週間、群馬県の「あかつきの村」に赴いた。シスターから、この仕事は他の人には頼めないからと、八月にオーバークートの山を仕分け陳列している、何度か一人のベトナム人の男の子のそきにやっていた。少し気の弱そうなのはかんだ顔が忘れられない。あかつきの村はリサイクル品を扱うと同時に、ベトナム難民センターでもある。多くのポートビープルがここから巣立ち、一方で、重い精神的病の方が数名ここに住んでいる。先頃、E.T.V特集で「佐藤さんとサン君」が放映された。ここで生きるようにと招きをはっきりと感じた佐藤さんは、以後、修道会ではなくあかつきの村を住まいとして「不条理な人生で病を負い、自分を放棄してしまうほどの苦しみの人」に寄り添って時を刻んでくれた。冒頭のみことばは自分の利益のために石をパンに変えるよう悪魔が誘惑している場面のイエスの答えである。自分の力やパンに依り頼まず、神の思いに忠実に従う道を歩むイエスは、私の中で、二十年来サン君と歩みを共にした佐藤さんの姿とオーバークラップしている。何より難民が生まれぬ世界となることを願う。

### 中学校

副校長 Sr. 柚木 洋子

# 幼稚園

## 園外仲良しランド

良い秋晴れの中、ドミニコ学院小学校のお兄さん、お姉さんと手を繋いで広瀬川へ遊びに行きました。河原でビンゴゲームをしました。小学生と一緒に体のいろんな所を使って、いい匂いのするお花や、虫を発見したりと、河原探索を楽しみながら、秋の自然を味わいました。シールが揃うと「ビンゴになったー!!」とペアの小学生と大喜び。少しずつ集まるビンゴカードを見ながら「全部集めるぞ!!」と目を輝かせ、ビンゴゲームを楽しんでいました。園内の仲良しランドでは見られない交流を味わうことができました。小学生と別れた後は、皆で大きな丸を作り、お弁当を広げて昼食タイム!!お外で食べるお弁当に「美味しい」の声が沢山聞こえ、友だちとの会話も楽しみながら頂きました。一年に一度の園外仲良しランドでは、小学生との交流や普段できない体験をすることができ、子ども達にとって充実した時間を過ごすことができました。



## イベント

十月十九日に行われたイベントでは、かわいい未就園児が来園し、在園児と共に大アリーナで、様々な種類の遊びのブースで楽しみました。お互いに照れながらも、体をいっぱい使って触れ合い体験を行いました。各ブースで遊ぶ時は、年長児は未就園児とペアになり、笑顔で手を繋ぎお世話をしていました。アンパンマン釣りでは、「上手に取れたね」「ここに色をぬるんだよ」などとお話も楽しみつつ、のびのびと遊んでいる姿がありました。もちろん年中年少児の子ども達もお兄さん、お姉さんになって一緒に遊んでくれました。頼もしい限りでした。保護者の皆さんも、触れ合いを通して在園児の優しさを感じたという、とても嬉しいお言葉が聞けました。最後に、ペアだった子には年長児からプレゼントを渡され、とても嬉しい表情をしていました！



## 収穫祭

秋晴れの中行われた今年の収穫祭のテーマは、「神様から与えていただいた大地の恵みを感じ、食べ物のもつ本来の味を知る」でした。お米の本来持つ味を味わえるよう、劇を通して米作りの様子を伝えていきました。本物の稲や精米前後のお米を初めて目にする子どもも多く、集中して劇や話しを聞く事が出来ました。劇終了後は、炊きたてのお米を子ども達と参加していただいた保護者の方と共に味わいました。子ども達は、お米をよく噛んで味わうことで甘味が出てくる事を学び、何十回も噛んで味わう様子が印象的でした。学院内にある「ドミニコ農園」では、さつまいもやじゃがいも等豊作に恵まれました。これも全て大地の恵みを与えて下さった神様や、苗をまき水をあげて育ててきた子ども達の努力の賜物です。子ども達は、食べ物のもつ本来の味を味わうことでその食材の良さを改めて感じる事が出来ました。



## 幼稚園生活を振り返って

三年前、満開の桜の下で入園の日を迎えました。不安気な表情の娘も先生方の温かくきめ細やかな配慮のお陰でお祈りを覚え、お仕事に親しみ元気に楽しい毎日を過ごしました。園行事では子どもたちの成長を実感できました。年少の可愛らしさ、年中でお友達も増え年長はドミニコパワー全開。身も心も逞しく成長した姿を見せてくれました。年長一丸となり真剣な眼差しで挑んだ組体操。全員でつくり上げる聖劇。お泊り保育は自立への第一歩。様々な体験が良き思い出になりました。私も、娘を通して多くの方々との出会いに恵まれ充実した日々でした。たくさんの方々の笑顔に触れ、共に喜びを味わいました。

園長先生をはじめ先生方は子ども一人一人の個性と可能性を深い愛情と祈りをもって導いて下さいました。感謝の気持ちでいっぱいです。三年間、本当にありがとうございました。

保護者 須澤 瑞穂



# 北仙台幼稚園

## 発表会

### 年少

「どうぞのいす」の絵本を基に劇を行いました。うさぎさんが椅子を作り、たくさん動物が食べ物をお話で、お家で買ったり既持っているというお話もありました。

練習中はなかなか台詞や動きが覚えられなかったり、恥ずかしがる様子が見られましたが、少しずつ出来るようになり、友だちと楽しく役になりきる姿が見られました。

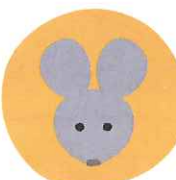
以前より子どもたち同士で関わる姿も見られるようになり、成長する様子に驚きつつ、年中さんになるのがとっても楽しみです！

### 年中

今年「ねずみの嫁入り」の劇を行いました。絵本を読んだ時から、子どもたちは自分なりの役になりたいたいかを考えて、練習も積極的に取り組んでいました。自分の出番だけでなく、控え室にいる時も大きな声で歌って全員で一つの劇を作り上げました。本番は緊張していたからか、練習で上手く出来たところもセリフを間違ってしまうことがありましたが、子どもたちは発表会の後に「楽しかった」「またやりたい」と達成感を味わうことが出来たようです。これからも友達と協力しながら、様々なことに挑戦出来るよう、援助していきたいと思えます。

### 年長

発表会では、イエス様のご生誕の劇「いちばんはじめのクリスマス」を行いました。年長児みんなでクリスマスとして、一人ひとりを考えながら練習してききました。遂げる事ができました。お友だちと一緒に協力し、聖劇を行えた事が自信に繋がりました。心身ともに大きく成長する事が出来ましたね。その自信を胸に、小学校で色んな事に挑戦し、どんな困難も乗り越えていけると信じています！



## 作品展

今年の作品展は、幼稚園のクラス名になっている「にじ」「ほし」「はな」「うみ」からイメージした、4冊の絵本の世界を表現しました。一年を通して一人ひとりの様々な作品を作ってきましたが、お友だちと大きな作品を作り上げた時には皆で力を合わせる事の大切さを改めて感じていたようで、完成した時は皆で大喜びしている姿も見られました。

作品展当日は、自分たちが作った作品を誇らしげに家族みんなに紹介していました。たくさんの方々に作品を見て頂き、嬉しそうなお友だちの笑顔が幼稚園中に溢れていました。



## 節分・豆まき

二月一日に節分より少し早く豆まきを行いました。「おにはそと」の歌を歌い、節分はどんな日か、どうして豆まきをするのか、などのお話を聞きました。「おにはそと！ふくはうち！」と練習していると、なんと赤鬼と緑鬼がやってきました！

一生懸命鬼に向かって豆を投げる子どもたち！怖くて泣いてしまうお友だちもいましたが、豆を上手に鬼に当てる事ができ、無事に鬼を退治する事ができました。鬼は皆と仲良くなりましたよ！

最後に元氣一杯「おにはうち」の歌を歌いました。少し怖い鬼だったけど、ハイタッチをして仲直りをする事ができました。



## クリスマス礼拝会

イエス様がお生まれになったクリスマスに向けて、献金箱や心の花束、毎日待降節を読んで準備を進めてきました。クラスで心の花束として優しい心や強い心はどんな事なのかを話し合いました。子どもたちそれぞれが自分たちで考え行動し、励む姿が見られました。

十二月十九日に行われた礼拝会では、事前に行っていた心の花束と家で行っていた献金を神様に無事にお捧げすることができ、子どもたちの嬉しそうなお姿を見ることができました。礼拝会中もしっかりと祈りする姿も見られました。

困っている方の為に一生懸命考え、取り組み始めた事でまたひとつ成長することが出来ましたね。



## 想い出の言葉と共に

保護者の会長 成田 育美

「お米」一粒一粒にも神様がいらっしゃるの。大事に食べて大きくなるからね」と話してくれた年少の冬。「いつも〇〇してくれてありがとう」と言葉や手紙で伝えるようになった年中の冬。そして幼稚園生活最後の冬、「ひよこさん達(年少さん)冬休みどうしてるかな。風邪ひいたりしてないかな。早くみんなに会いたい」と年長の責務を感じながらお友達と過ごす時間を心待ちにしている息子の姿が熱くなりました。長いようであつたという間の三年間には、忘れられない様々な言葉が心に刻まれています。

その言葉から、慈愛の精神が養われ思いやりや感謝の心が育まれたこと、笑顔溢れる楽しい日々を過ごしてきたことを実感します。

社会生活の礎となる大切な経験をさせていただき、あたたかい想い出を作ることができたのは子ども達と誠実に向き合い、たくさん愛を注いでご指導下さった先生方のおかげです。子ども達の心身の成長を先生方と共に喜び合い、共感できたことになっていきます。また、一緒に笑って合つて幼稚園生活を送つたお友達、そのお子様を大切に育てていらつしやるご家族。全ての方々に心から御礼申し上げます。

これからの日々においても、子ども達のさりげない言葉の中にある学びや想いを心に留めていきたいと思えます。そして子ども達をそれらの教えを糧にして「あかるく・つよく・ただししく」成長していくことを願っています。

# 小学校

## 学芸会

一年生にとって初めての小学校学芸会。楽しい劇をお客さまにプレゼントしようと、みんなで心を合わせて練習を頑張りました。一番の四日前には、全学年の演目を観る校内学芸会がありました。どきどきしながらも精一杯の声で台詞を言えたことを振り返り、絵日記にかきました。



山本 葉琉

十一月七日、ぼくたち一ねん生は、こうないがくげいかいで、「はたけの下は大さわぎ」のげきをしました。

さいしょは、たくさんの人に見せるのがはずかしかったけれど、ぼくはできるとおもってがんばったので、はずかしがらずにできました。

こんどは、おとなの人にも見せられることができました。

菅並 爽良

ぼくは、じゃがいものやくです。まくがあくまえはちゃんと大きなこえでせりふがいえるか、すこしどきどきしていました。

げきははじまって、ぼくは、おすもうさんのように

「じゃがいもでえす。」

と大きなこえでいえました。

このちようしで、ほんばんもがんばりたいです。

小園子 翔太

ぼくは、げきははじまるまえは、とてもどきどきしていました。はじまると、もつともつどきどきしました。おわたたあとは、とてもつかれて、ぐったりしてしまいました。

ほんばんは、きんちようしないでがんばります。おとうさんとおかあさんが見にくるので、ほんばんは、一ばんじようずにやります。

庄子 さくら

わたしは、きようのげきでは、じぶんのせりふを大きなこえでいえました。いつもははずかしくてこえが小さかったけれど、きようはみんながいてくれたので、ゆうきを出してがんばりました。土よう日は大きなこえでできるよに、がんばります。

小林 海翔

きようのこうないがくげいかいは、とてもおもしろかったです。ぜんぶのがくねんがそれぞれうたやおどりやげきをひろうしてくれました。とてもじようずでした。

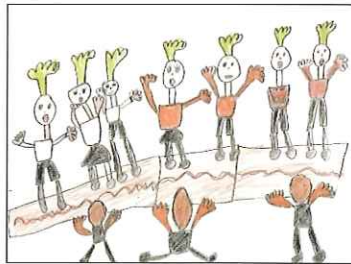
ぼくたち一ねん生も、みんなをかんげきさせられるよに、一しようけんめい頑張ろうとおもいます。



栗山 カノン



熊谷 来希



碓石 和奏

## ハンド・イン・ハンド

毎年小学校では、児童会目標「世界の子供と手をつなごう」のもと、十二月にユニセフの募金活動「ハンド・イン・ハンド」を行っ

ています。二〇一八年のテーマは「すべての子どもに五歳の誕生日を」でした。子供たちはこのテーマを胸に、一二年生は学院内で、三年生以上は仙台市街に出て寒空の中、一生懸命、募金の呼びかけをしました。

三年 川島 聡一郎

十二月八日に、三年生から六年生の全員がグループに分かれて、ユニセフの募金活動を行いました。

ぼくは、藤崎の向かいのマクドナルド前で募金の呼びかけをしました。

たくさんの方がいたので、最初、声を出すときに少しきんちようしましたが、街の人たちに聞こえるように一生懸命呼びかけました。

しばらくすると、とても寒くて指先がこおりそうになり、立っているのもつらくなってきましたが、

「がんばっているのね。」

「寒いのにえらいね。」  
などと、声を掛けながら募金をしてくれる人もいたので、心があたたかくなり、最後まで頑張ろうという気持ちになりました。

おばあさんや若い人も、いそがしい中立ち止まって募金をいれてくれたので、うれしかったです。

ハンド・イン・ハンドが終わったときに、  
(はあ、終わったー)と、ほっとして、寒かったけれどやりとげることができて良かったと思いました。

ぼくたちの集めた義援金が、戦争や災害などで苦しんでいる世界中の子どもたちに、少しでも役立ってくれたらうれしいです。  
来年も、世界のめぐまれない子どもたちの

ために、ハンド・イン・ハンドの呼びかけを  
がんばりたいと思います。



### クリスマス礼拝会

カトリック学校として、「クリスマス礼拝  
会」は大切な行事の一つです。

救い主であるイエス様のご誕生について、  
六年生が聖書朗読を行い、合唱団が歌でクリ  
スマスタブローを表現しました。

### 礼拝会を終えて

五年 庄子 麗

私は今回のクリスマス礼拝会で、羊飼いの  
役をしました。実際に羊飼いと役をする  
ことで、その人達が感じた待ちに待った救い  
主のご誕生の喜びを自分でも感じることで  
きました。

「どうしてイエス様は赤ちゃんとしてこの世  
に来られたのでしょうか。」という問いかけが  
ありましたが、イエス様のような赤ちゃんに  
笑ってもらおうと、自分まで心が温まり、笑顔  
になると思います。赤ちゃんにはほえまれて笑

顔にならない人はいないと思います。そのよう  
な幸せを貧しくても感じられる、やさしい心  
を持った羊飼いの役を頂けて良かったです。そ  
して、このクリスマス礼拝会を見た人も見られ  
なかった人もクリスマスの日起こった奇跡を  
感じられる機会  
があったらいい  
なと思います。  
それを感じなが  
らクリスマスの  
本当の意味を考  
えて、幸せな気  
持ちになれると  
いいなと願って  
います。



### 博士を演じて

五年 都留 環希

毎年、小学校では礼拝会で、合唱団が中  
心となって聖劇を行います。その聖劇で、私  
は博士の役をしました。最初、私が博士の役  
をするに聞いた時、私はとても緊張してしま  
いました。理由は、博士はソロで歌うパート  
があります。今まで私は一人で歌ったこと  
がなく、自信が無かったからです。

私は練習をするにあたって博士たちのこと  
を考えました。

博士は、星を追いながらイエス様の所へ行  
きました。しかし、星を追うことは、必ず日  
的の場所に行けるとは限りません。だから、  
三人の博士達は少し心配だったと思います。  
でも、自分達のことを信じ、イエス様のこと  
をお祝いしたいという気持ちがあつて、苦し  
い旅を続けました。

私も、博士と同じように、練習はとても大

変で成功するかは心配でした。でも、私が博  
士のような思いを込めて歌わないと、この劇  
は失敗してしまうかもしれません。だから、  
私も練習したことを信じて本番で歌いまし  
た。



礼拝会で一人  
で歌ってみて、  
何事も努力する  
ことが大事だと  
思いました。こ  
れからは、いろ  
いろなことに対  
し、あきらめず  
に自信を持って  
行動したいと思  
います

### 校内書写展

毎年一月に「校内書写展」を行っています。  
全学年の硬筆、三年生以上の毛筆、そして全  
学年の漢字練習ノートを展示します。学年ご  
とに金賞・銀賞・銅賞の作品が選ばれます。

書写展を通して、子供たちは「もっと字を  
上手に書けるようになりたい。」「字を丁寧  
に書くようにしましょう。」など、書くことへの意  
欲を高めています。



四年生の森井淳斗君は、今まで校内書写展  
の硬筆の部で金賞、県展を経て今年で四度目  
の「部会長賞」を受賞しました。  
そこで、「字を書くこと」についてお話を聞  
きました。

四年 森井 淳斗

どの人が見ても分かるきれいな字は、人に  
喜ばれます。だから、できるだけ丁寧に字を  
書くように心がけています。

書き初めの練習の時は、お手本を見ながら  
たくさん練習をしました。一日でもさぼって  
しまうと、止め・はね・はらいなどの書き方  
を忘れてしまうので、忙しくて十分程度に  
なってしまっても、毎日練習を続けました。  
細かなところも上手に書けるように一字ずつ  
練習をすることもありました。

正しくきれいな字を書くためには自分の字  
と向き合い、練習を継続することが大切だと  
思います。

また、ノートの部で金賞を受賞した二年生  
の管野樹君にもインタビューをしました。

二年 管野 樹

漢字練習のノートは日ごろからきれいに書  
くように心がけています。

去年の書写展で硬筆の部の銀賞をとってか  
ら、金賞を目指してきました。今年はノート  
の部で金賞がとれて、それが分かった時は涙  
が出るほど嬉しかったです。一生懸命に取り  
組んでできてよかったなと思いました。

来年の目標は、硬筆とノートの両方で金賞  
をとることです。また一年間、がんばろうと  
思います。

# 中学校

## 一年を振り返って



中学校主任 大坂 康寛

今年度は、中学校再開十年日となり、卒業生は首都圏や地元大学へ大勢進学するなどそれぞれの個性を十二分に発揮しています。在校生も部活動だけでなく、運動会のリレー競技、文化祭の展示やステージ発表、作文・絵画作品での受賞など、自分の力を伸ばし、未知の力を探り、可能性を伸ばすことができた一年となりました。

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。中学校の三年間で、悩み、失敗から学び、そして大いに笑い合い、「人としての根幹」を身につけ、それぞれの根を張った今、次のステージ、高等学校で太い幹を育て、上級学校で若葉を芽吹かせ、社会に出て美しい花を咲かせ、実をつけ大きく成長し、活躍することを願っています。

## 卒業おめでとうございます



三年A組 担任 前田 朱実

中学校三年生の保護者の皆様、ご息女の卒業おめでとうございます。今日という佳き日を迎えるまで、保護者の方からはたくさんのご協力をいただきました。中学生という多感な時期にあって、心配は尽きなかったことと思います。少人数での学校生活でしたが、本当にたくさんの方がありました。一年生の担任の木村先生に頼ってばかりの幼い子どもたちが、今では堂々と自分の意

見を主張したり、後輩の面倒をみるようになりました。もちろんまだまだ未熟なところは多く、高校生活で新しい多くの仲間と切磋琢磨しながら大きく羽ばたいてほしいと願っています。私は初めて中学生を担任し、今年度卒業を迎えますが、生徒とともに多くの経験をさせて頂き、教員の役目について日々考えさせられました。ここまで来られたのもひとえに保護者の皆様のお陰です。至らない点多々ありましたが、このクラスを担任した二年間は私にとってかけがえのない時間でした。ありがとうございました。

## 仲間と過ごした三年間



三年 佐藤 由菜 (聖ドミニコ学院小学校出身)

入学した頃は、まだまだ先だと思っていた卒業の時が刻一刻と迫ってきています。振り返れば、ここまで波乱万丈な道のりだったかもしれません。私たちのクラスは、元気がいっぱいである、毎日笑顔が絶えません。でもその分、素直になれず、些細なことでも何度もぶつかり合いもしました。でも気づけば、いつの間にかその壁を乗り越えていました。みんなと一緒に、強い絆があるからできたことでした。みんなが私を成長させてくれました。何度泣き、笑い、力を合わせてきたのでしょうか。その一瞬一瞬が思い出で数えきれません。三年という時間があっという間に感じたのは、楽しかったからに違いありません。辛い時、声をかけてくれる子、面白いことをしてみんなを笑わせてくれる子、部活などを頑張り、元気をくれる子。それぞれ違う優しさを持つ友達と過ごせた時間を大切にして、心から「ありがとう」と伝えたいです。

## 職場体験を通して学んだこと

二年 網代 桃香 (寺岡小学校出身)



今年私たちは、ホテルとハンバーグ店、郵便局の三つの職場で体験してきました。私は、いつもは見ることでできない裏側や、詳しい仕事内容を知りたかったので郵便局を選びました。仕事はポスト清掃や正しく記載されていない郵便物の処理など行いました。一番心に残ったのは区分機というはがきを地域ごとに分ける機械でした。実際に体験する前は、職場の人に迷惑をかけるまいかと心配でしたが、職場の人たちが丁寧に教えて下さり、緊張することなく働くことが出来ました。また、郵便局での仕事を通して、仕事は信頼で成り立っているんだなと学びました。信頼の大切さを改めて感じた職場体験学習でした。



## 活躍するドミニコ生

(平成30年10月)

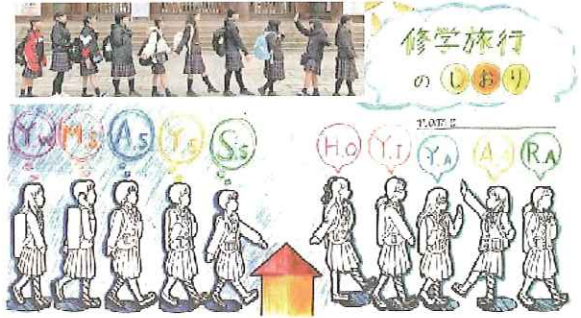
### 【聖ドミニコ学院中学校】

- 第65回仙台市児童生徒理科作品展 会長賞 2年 剣持 燈
- 第30回仙台市中学校新人大会 青葉区大会 女子個人の部 優勝 2年 山下 紗知
- 女子個人の部 第2位 2年 剣持 燈
- 女子団体の部 優勝 2年 剣持 燈
- 仙台市青葉区秋季少年剣道大会 中学生女子の部 優勝 剣道部
- 第20回青葉区民総合スポーツ祭 剣道 中学生女子団体戦 優勝 剣道部
- 栃の葉剣道感謝祭 ポジション別個人戦 先鋒の部 第2位 2年 山下 紗知
- 中堅の部 第3位 2年 庄司 心優
- 第47回マーチングバンド・バトントワーリング東北大会 銀賞 バトン部
- 下野杯争奪剣道大会 第5位 剣道部
- Aリーグ 第2位 女子団体 剣道部
- 女子個人の部 優勝 2年 山下 紗知
- 平成30年度仙台市中学校読書感想文コンクール 3年 佐藤 由菜
- 平成30年度仙台市「心の輪を広げる体験作文」中学生部門 最優秀賞 2年 御澤 音巴
- 平成30年度仙台市「障害者週間ポスター」中学生の部 最優秀賞 2年 網代 桃香
- 第26回岩手県中学校剣道錬成会 優秀賞 2年 内田愛梨佳
- 女子団体 第2位 剣道部
- 第22回マーチング&バトンオンステージ 東北大会 ジェントリーステージ賞 バトン部
- 第32回宮城県中学校剣道選手権大会 女子団体 優勝 剣道部
- 優秀選手 2年 菊地 彩加
- 平成30年度仙台市小中学校図画工作美術合同展 入選 2年 庄司 心優
- 入選 2年 山下 紗知

# 高 校

# 修学旅行だより

# 中学校



とても充実した五日間を過ごしました。その中で強く印象に残っていることは二つあります。

一つ目は初日に行った広島原爆ドームと広島平和祈念資料館です。教科書等で何回も見ただけのある場所でしたが、直接その場をみるとゾッとする気持ちになりました。ガイドさんから原爆ドームの中にはいまだに人の形をした黒い焼け跡があると聞きました。広島平和祈念資料館には餓死した人の写真がた



私達二年生は、十二月三日から、初日は広島、二日目は宮島(広島)倉敷(岡山)、三日目は大阪、四、五日目は京都と

**学びと笑いの五日間**  
修学旅行実行委員長 二年 峯岸 このみ (中山中学校出身)

くさんありました。当時着ていたであろう服が小さい子の物から大人の物まで展示されていました。それを見ているだけでとても息苦しい気持ちになりました。戦争と平和について私達は常に考え続けなければいけないと感じました。

二つ目は大阪のUSJです。ここは誰もが楽しみにしていた場所だと思います。私は初めてのUSJだったのでドキドキでした。乗り物で一番楽しかったのがハリポッターの乗り物です。魔法の世界に連れていかれた気分になりワクワクしました。私は体の浮くような絶叫系は苦手なのですが、たくさんチャレンジした一日でした。

私はこの四泊五日でたくさんのお話を学びました。歴史や文化だけではなく友人との時間からも多くのことを学んだと思います。この二年生で修学旅行に行けてとても楽しい思い出になりました。

で焼失したものを忠実に再現し保っている現代の人の力に感動しました。ここでは身分によって部屋の天井の装飾が変わることを教えていただき、自分の目でそれを感じることができました。

自主研修では友達だけで行動し、少し焦ることはあったものの大きなトラブルもなく協力して研修ができました。研修二日目に大雨が降ったのが少しつらかったけれどそれもまた思い出になりました。

名所の中で私が特に考えたことは、最終日に行った本丸御殿です。本丸御殿は内装がとても綺麗で細かく、昔の人のデザイン力や一度空襲



私達中学三年生は待ちに待った修学旅行を十二月に迎えました。三泊四日の中で名所を見学、学習しました。また、自分達

**修学旅行**  
三年 浅野 優里 (将監中央小学校出身)



- 【聖ドミニコ学院高等学校】**
- 第1回原田源次旗高校新人大会  
女子の部 優勝 剣道部  
最優秀選手賞 1年 内田 美空  
優秀選手賞 1年 千田 優香
- 第37回宮城県高等学校放送コンテスト新人大会  
朗読部門 優良賞 2年 白倉向日葵
- 宮城県高等学校体育連盟剣道専門部  
優秀選手賞 3年 相沢 杏佳  
優秀選手賞 3年 有馬 碧良  
優秀選手賞 3年 佐藤 愛緑  
優秀選手賞 3年 八木悠綺奈
- 平成30年度宮城県高等学校新人大会  
女子個人 第3位 1年 内田 美空  
1年 岩井 南美
- 第62回社会科生徒研究発表会  
奨励賞 2年 太田 光利  
奨励賞 2年 白倉向日葵
- 平成30年度宮城県高等学校新人大会  
女子団体 第2位 剣道部
- 第7回創作絵本・紙芝居・デジタル絵本コンテスト  
中学・高校生の部 優秀賞 2年 峯岸このみ  
特別賞 2年 白倉向日葵  
特別賞 2年 遠藤葉奈永  
佳作 2年 沼田 優那  
佳作 2年 水野 光葵
- 学校賞**  
東邦書道会創立70周年記念展  
山形美術館長賞 1年 清野 絢花

# 高等学校

## 邂逅と謝念

三学年主任兼三年三組担任

小野 尚



三年間の高校生活を  
終え、新しい世界へ旅立  
つ日を迎えました。卒業  
生の皆さん、ご卒業おめ  
でとうございます。

私は折に触れて「人として大切なこと」を皆さんに話してきましたが、今回が最後となりました。今回は、卒業生の皆さんに亀井勝一郎の『絶望からの出発』という本を読んだときに出会った「邂逅と謝念」という言葉について話します。

私たちは、自分一人の力で生きていくわけではなく、自力で成長しているわけでもありません。書物を通して接した様々の先師、あるいは今までに出会った先生や先輩、友人や家族の導きによって自己を形成してきたのです。

人生の中で自己を形成させてくれた決定的な出会いが「邂逅」です。もしあの時、あの人（あるいはあの書物）に出会わなかったならば自分はどうなっていたのだろうと思うこと、その出会いに感謝する気持ちが「謝念」です。

人生とは出会いと別れの連続で、出会いの歴史こそがその人の人生なのです。皆さんの中にある生命の息吹は、いつも何かを求め、何かを創造しようとしています。何かを求めれば、必ず何かを得られるはずですが、純粋な気持ちで、謙虚な気持ちで前途を見つめましょう。

心を揺さぶるような人との出会いを大切に、その出会いに感謝して、皆さんが進む新しい社会で活躍することを心から願っております。

## 三学年担任から

### 大切な時間

三年一組担任 内海 志保



卒業おめでとうございます。この学校で過ごした三年間、それぞれどんなことに時間を費やし、どんな風に時間を使ってきましたか。

「バラのために使ったキミの時間が、キミのバラをかけたえのないものにしたんだよ」——『星王子さま』にある有名な一節です。「何か」に時間を割くということは、限りある人生の一部を投じて「何か」を大事にすることなのだと思えます。

あの人のために何ができるだろうと考えた時、あの人とけんかをして落ち込んだ時間、あの人と笑いあっていた満たされた時間。それらが皆さんにとつての「あの人」を大事な存在にしてくれたはず。睡眠と戦いながら勉強に取り組んだ時間、もっと強くなりたいと練習に励んだ時間、自分の心と向き合った時間。自分の成長のために使った時間は、自分をかけがえない存在だと認め胸を張って歩んでいける未来を作ってくれることでしょう。

皆さんは私の大事なバラです……なんて恥ずかしいのかもしれませんが、一緒に過ごした時間は宝物です。皆さんの幸せをいつまでも願っています。

### 前後裁断

三年二組担任 若松 実



私は三年間、幼児保育進学コースの担任として、今年度の三学年のクラス担任をさせて頂きました。今の三年生が入学したときのこと、昨日のことのように覚えています。この三年間を思い出してみると、楽しかったことや嬉し

かったことばかり思い出されます。皆で大きな声を出した運動会や球技大会。クラスで団結し作り上げたドミニコ祭。仲間との絆を深めた修学旅行など、いつも側で一緒に笑い楽しみ、皆の成長に携わることができてとても幸せでした。

## ドミニコ学院の三年間

前生徒会長

三年四組 菲澤 理念  
(広陵中学校出身)



私は、三年間聖ドミニコ学院で生活したことで、本当に多くの経験と学びを得ることが出来ました。三年間は多く

の方々を支えられ、たくさんのお会いがありました。ここまで成長することができたのは今まで関わってくださった方々のおかげだと強く思うのと同時に、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私が高校生活の三年間で学ぶことができたのは、目標を達成する力です。高校に入学する時に私が立てた目標は、勉強に力を入れることと留学をするということでした。その目標を達成するために日々、自分なりにやるべきことをしっかりと意識し、目標に向かって地道に取り組みました。目標が大きくて諦めそうにもなりましたが、やりたいことを口にして、それに対して責任を持って行動することで、自分が立てた目標を三年間ですべて達成することができました。

このようにすべてのことが達成できたのは、いつもそばにいてくれた友達や、多くのことを教えてくださった先生方、一番近くで応援してくれた家族、今まで様々な場所で出会った方々のおかげです。この方々の支えがなかったら、きっと今の私はいないと思います。本当にありがとうございます。

この聖ドミニコ学院でたくさんの方々と出会い、多くの経験を一緒にできたことは私の宝物です。これからはみんながそれぞれ違う道に進みますが、それぞれの道で活躍されることを願っています。

### 感謝

三年四組担任 石川 裕之



ご卒業おめでとうございます。皆さんとは、一年生から授業を通して関わらせてもらいました。昨年度からは、キャリアデザイン

コースの担任をさせて頂きました。個性溢れる皆さんと一緒に修学旅行やドミニコ祭、運動会、球技大会等々、多くの行事や毎日の生活、授業一つひとつがとても思い出深く心に刻まれております。特に四組は、落ち着きがなく、私の話を聞かない生徒が多かったですが、憎めない「めんこい」皆さんの高校生活に関われたことが嬉しく思っています。

これから、思いもよらないことが起こることもあると思います。そうした変化を楽しめる人になってください。全てのことに楽しさを見つけてくれる人になってください。つらいから逃げるのではなく、そのつらさが楽しく感じられるように前向きに進んでいってください。それがあなたの成長につながると思います。そして、自分も周りも幸せにできる人になってください。そのためには「感謝」の思いを常に持ち、「出会い」を大切にしてください。皆さんに出会えたことを本当に感謝しています。



# 各コースの1年を振り返って

## 特別進学コース 特別進学コースリーダー

阿部 博子

今年度は入試改革元年に受験生となる一年生を迎え、学年によって入試制度が大きく異なる過渡期に入りました。GTECはスピーキングテストも含めた四技能対応に変わり、一年生と二年生はドキドキしながらタブレットに向かって英語で話しかけていました。

## 幼児保育進学コース 幼児保育進学コースリーダー

佐藤 正久

今年度のドミニコの幼児保育進学コースは、四月から始まった放課後の「ピアノレッスン」(年間三十回)を皮切りに、児童養護施設仙台天使園園長土倉相先生をお招きしての「いのちについて考える学習会」、東北大学大学院教授佐藤嘉倫先生、文

## キャリアデザインコース キャリアデザインコースリーダー

伊藤 崇

今年度は、四月から開講した一二年生への「基礎学力勉強会」と三年生への「AO入試・就職試験対策講座」より始まりました。英・数・国三教科についての学び直しを行う「基礎学力勉強会」の成果は、長期休み明けに行う基礎力診断テストにおいて、

eportfolioへの対応に備え、クラッシーを活用した活動の記録も始めたところです。とはいえ、何から何まで変わるわけではなく、学習の本質は変わりません。大切なことは、日々の学習を積み上げ、弱点を克服し、自分の殻を破って大きく成長していくことです。七時間授業毎日の小テストと居残り、情け容赦なく連日投下される宿題、要求の高い定期考査、悪夢のように上がらない偏差値と判定。ハードボイルド特進スクールライフは明日も続きます。

三年生、卒業おめでとう。一年生は一年間よく耐え、頑張りました。そして、二年生は受験生始めました。  
※写真は、大学出張授業のひとつこまです。今年度は、東北福祉大学保健看護学科の齋二美子先生と、山形大学地域教育文化学部の金子淳先生をお迎えして授業を行っていたことができました。

教大教授加藤理先生、東北文教大学准教授永盛善博先生をお迎えしての「幼児保育系大 学短大フォーラム」、東北福祉大学准教授吉田綾乃先生をお迎えした「国連世界こどもの日フォーラム」など充実していました。  
また、「保育学」や「絵画と造形」など幼児保育ならではの授業や保育技術検定に担当教員の熱心な指導に添えて生徒たちは真剣に取り組んできました。  
その他、系列幼稚園での「お泊まり保育」

のお手伝いや「保育観察体験学習」にも積極的に参加し好評を得ています。将来、子どもたちや保護者、同僚の先生に頼りにされる賢明な保育者を目指し、師弟ともども日々精進していきたいと思います。

D3ゾーン(進路実現が厳しいレベル)であった生徒が減少したにも現れています。加えて、社会人講師による二三年生への「ドミニコの森」も開講し、評判も上々でした。  
また今年度は各種検定前の放課後に、「検定対策講座」を開講しており、ほとんどの三年生が何らかの検定を取得することができました。さらに挙げた「AO入試・就職試験対策講座」もあって、今年のキャリアコース三年生の進路状況は大変良好です。

最後に、毎年恒例となっている学年をこえた「キャリアコース交流会」では、一学期には先輩から後輩へと様々なアドバイスを行ってもらい、二期には学年をこえて協力するレクリエーションを楽しみました。



## 平成三十一年三月卒業生の進路状況

(平成31年2月20日現在)

### 【大学合格者】(37名)

東北学院大学(7)・仙台白百合女子大学(6)・東北文化学園大学(3)・東北福祉大学(2)・尚絅学院大学(2)・宮城学院女子大学(2)・東北工業大学・東北生活文化大学・石巻専修大学・仙台大学・盛岡大学・東北公益福祉大学・城西国際大学・茨城キリスト教大学・東洋大学(3)・日本社会事業大学(2)・創仙大学・帝京平成大学

### 【短期大学合格者】(9名)

聖和学園短期大学(3)・仙台青葉学院短期大学(3)・仙台赤門短期大学(2)・東北生活文化大学短期大学部

### 【大学校合格者】(1名)

宮城県農業大学校

### 【看護学校合格者】(4名)

仙台徳洲看護専門学校(2)・東北労災看護専門学校・仙台医師会看護専門学校

### 【専門各種学校合格者】(33名)

仙台子ども専門学校(7)・仙台医療秘書福祉専門学校(2)・仙台幼児保育専門学校・仙台ビューティーアート専門学校(2)・仙台ウエディング&ブライダル専門学校(2)・仙台大原簿記情報公務員専門学校(2)・仙台リゾート&スポーツ専門学校・仙台ヘアメイク専門学校・仙台医療福祉専門学校・東北文化学園専門学校・東北保健医療専門学校・日本外国語専門学校・東日本航空専門学校・仙台コミュニケーションアート専門学校・赤門鍼灸柔整専門学校・仙台医療・スポーツ&こども専門学校・IFC栄養専門学校・日本工学院蒲田校・東京スクールオブミュージック専門学校渋谷・専門学校ESPエンターテインメント東京・NICインターナショナルカレッジ・国立音楽院宮城キャンパス・東北こども福祉専門学校

### 【就職内定者】(6名)

宮城県社会福祉協議会・仙台三越・ニッコー観光バス・ヘアメイクリアン・ワタキューセイモア東北支店・丸九・帝産観光バス東京支店・有限会社リアライズ・ウィンドベルモスバーガー仙台愛子店

ドミニコ・ファミリー

小学校校長 土井 智子



十二歳になっ た子供たちが、六年間一緒にク ラスで過ごして いた仲間と別れ る日がすぐそこま で来ています。本校は一学年一クラスで すから、クラス替えも なく、毎日一緒に 過ごしてきました。 人生の半分の年月を いつも一緒にいたとい う結びつきは、深いものがあります。共に過ごす日々の中で、言葉の行き違

神様からのギフト

幼稚園園長 森本 幸子



最近、時折帰 省してくる一歳 九カ月になる孫 の成長から目が 離せません。白 分も四人の子育てをしたはずなのに、余 裕がなかったのです。孫の成長ほど ゆっくり楽しむことはありませんでした。孫を覗いていると人間の持つ潜在能力のすばらしさにただただ感嘆します。そ

恩送り

北仙台幼稚園園長 齋藤 潤子



自然の災害の 多かつた平成 三十年もあとわ ずかで新しい元 号の時代に入り ます。新時代の幕開けとともに、新生活 に入る卒業生、夢と希望をもって新年度 を迎える皆さんを心から応援したいと 思っています。 さて、少々古いと思われそうですが、 日頃恩送りということばを聞いたり意識

や思い違いから、トラブルに発展したこ ともあったでしょう。気が合わなければ 関係を断ると言うような大きな集団で はありません。関わりの中で、互いを理 解しあったり、ちょうど良い距離感を保 とうとしたり、過ごした日々の中で、子 供たちは人との付き合い方を覚えてきま した。どんな対応の仕方がいいのか、時 には深い洞察力をもって接していること もありました。

「こうした試行錯誤の経験は、成長し て他の集団に属する時に力を発した」と、 卒業生の多くが口にしています。自分の 考えを伝える時に、まず相手がどんな状 態であるかを考えてから言葉にするよう

れは、きっと地球上に生命が誕生した約 三億年前から途絶えることなく粛々と 受け継がれてきている、不思議で人智で は測り知れないギフトなのでしょう。歩 き始め、手を使う自由を得、手を自分の 思うように使う過程で意志が拡大してい きます。そして記憶に繋がりが定着してい きます。始めは、ワンワンは、寝る時に 側にお気に入りの物体がワンワンで いた。しかし、いつの間にか外を歩いて いる様々な犬がワンワンとして拡大して いきます。車花についても同様、色、 形、見た目が全く違っても車は車、花は 花として認識していく過程は面白く興味

したことはあるでしょうか。誰かから受 けた恩を直接その人に返すのではなく、 別の人に送ると言う意味の言葉です。 私たちは命を授かった時から誰かとか かわりを持ち、助けたり助けられたりし ながら生きています。元気で穏やかな毎 日を過ごしている時には考えることも殆 んどありません。しかし、私たちは一度 大変な状況に置かれると、当たり前の生 活がいかに恵まれたものであったかに気 づかされ、人の心の温かさや行動に素直 に感謝と感動させられるのです。 私たちが今日まで受けた多くの愛とも 言える恩は、あまりに深く大きいもの で、いつどこでどのようにお返しして

になったというのです。特に気負うこと もなく、迎合することもなく、淡々と自 分の考えを伝えること、意見の違いがあ つても相手の人格を尊重すること、小 学校の教室で繰り返し求められたこと が、対人関係を築く上での基本になって いました。

二十歳を超えても、連絡を取り合っ ているという卒業生の話を聞くと、この小 さな学校で過ごした彼らの結びつきに は、ファミリーという言葉がぴったりと 合います。 巣立つ六年生も在校生も、ドミニコ・ ファミリーの一員としての誇りを胸に、そ れぞれの場で輝いてほしいと願っています。

深いものでした。 子どもたちが、神様から頂いている (天から付託されている)資質・能力・ 運命などのギフトは、人との「出合い」、 人から頂く「ことば」、そして様々な「出 来事」を通して子ども一人一人が関与す ることで、開花していくことを思う時、 子どもたちにとって真実なもの・善いもの・美しいものを感じ、味わえる「環境」 に心を尽くして参りたいと心から思いま す。 進学・進級する一人一人が良き出会い に恵まれますよう心から祈っております。

いったらいいのかわからないのではない でしょうか。 私自身は今までかわわってくれた多く の人々に恩返しをできていませんし、ど のようにしてお返しすればいいのかもわ かりません。 でも恩送りなら微力ながらも何かで きそうな気がします。周りの人や助けを 必要としている人がいたのなら、小さな 行いであってもかかって受けた恩に對する 感謝の心を込めて、届けたいと思っ てるのです。いずれその思いの輪が広が るて、人々の心が優しさを増し平和を求め ることができるようにと祈りながら……

右手が教えてくれたこと

中学二年 御澤 音巴 (大崎市古川立第五小学校出題)



私の右手は生まれ つき不自由です。靴 ひもを結んだりする 動作など自分一人では できません。右手 の握力がほとんどないため、細かい動作 ができないのです。そのため、日常生活や 学校生活において、右手を使う場面では、 とても困ります。そして何となく恥ずか しくて右手を隠したい気持ちになっ ています。右手が思ったように使えないこと で自信が持たなくて、以前は引込み思案 になっていました。引込み思案や恥ずか しいという考えがある目を境にして変化 したことがあります。それは、自分の手 をしばらく、じっと見つめていた時のこと です。突然、私ははっとしました。私の右 手はあまり思うようには動かないけれど、 しかし、この右手から私自身、いろいろな ことを教えてもらっている気がついたか らです。右手から教えてもらったこと。そ れは三つの心です。

一つ目は、あきらめないでやってみると いう、挑戦し、練習し、やり通す心。私 は皆と同じように、要領よく、上手には できないことも多いのですが、やり方を工 夫したり、多くの練習をすればできたこ ともありました。例えば、体育のバドミントン の授業の時のことです。最初はサーブ ができませんでした。どうすればサーブが できるようになるかと考え、家でもくり 返し練習しました。右手でシャトルをつか むのが苦手できませんでしたが、右手に すべり止めの指サックをしてサーブをし てみたら、何と上手にサーブが決まりました。右手に指サックをすることで、シャトル がすべって落ちることなく上手につかむ ことができるようになったのです。そして 今では体育の授業で、指サックをしなく ても素手でサーブができるようになりました。このように、どうやったらできるか工夫 をしたら、私にもできると言うこと、あ

きらめかないでやり通すという大切なことを 学びました。 二つ目は、助け合いの心です。以前、こ んなことがありました。それは、家庭科の 調理実習の授業でハンバーグを作った時の ことです。材料を切る担当を決めたのです が、その時、担任の先生や友達が固い玉ねぎやキャベツを切る担当になってくれまし た。私はキュウリを担当して切ることがで きました。このように、自分一人ではでき ない作業でも、先生や友達が私を助けてく れたり手伝ってくれたりしたので、本当に ありがたいです。皆に助けられたり助けた りと助け合いの心も教えてもらいました。 三つ目は、ありがとうと言える感謝の 心です。小学生の時、助けてくれた相 手に対して、恥ずかしくて、ありがとう、 と言えなかったこともありました。そんな 時、私の右手は、ずっと私を励ましたり助 けていたように感じます。その励ましのおか げで、今では、助けてくれた相手に対し て、しっかりと「ありがとう」と伝えること ができています。そして、心からその相手 に感謝しています。

きっと、これからも先生方や友達に助 けてもらったり、手伝ってもらったりする ことも多いと思いますが、その時は、あり がとう、とただ伝えるだけでなく、あり がとう、を、笑顔で言える自分でありたい と思っています。 (平成三十年度 仙台市「心の輪を広げる体験作 文」 中学生部門 最優秀賞受賞作品)



題「こまっている人がいます。」 絵・ 中学二年 網代 桃香 (寺岡小学校出身) (平成三十年度 仙台市「障害者週間のポスター」 中学生部門 最優秀賞受賞作品)